

笠松中学生、医療機器に触れる



松波総合病院が
セミナー
現場への関心高める

松波総合病院(笠松町田代)が、地元の笠松中学校(同町弥生町)の生徒に医療の現場への関心を高めてもらうと「メディカルセミナー」を同校で開き、2年生約200人が手術に使う機器の操作などを体験した。(山田俊介)

3D内視鏡操作を体験

キャリア教育の一環で毎年開き、3回目。病院職員や機器メーカーの社員などが訪れ、18の体験コーナーを設けた。腹腔鏡手術で使う3D内視鏡や、呼吸器を見るための内視鏡などが体育館に並んだ。生徒らは、術後の負担軽減といった機器の利点について説明を受けた後、操作を体験し、医療への興味を膨らませた。物干しざおや毛布を使った担架の作り方、自動体外式除細動器(AED)の使い方などを学ぶコーナーもあった。

画面を見ながら3D内視鏡を動かす生徒ら＝笠松町弥生町、笠松中学校